昭和七年六月十五日 第三種郵便物認可

昭和八年九月卅日

常磐新聞

第百七十六號 (一)

夕刊 常磐新聞

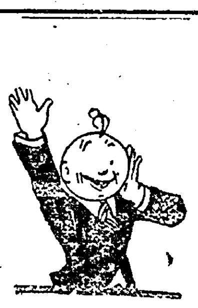
五日 十日 十五日 廿日 廿五日 卅日

定價（一部五錢 一ケ月二十錢 一ケ年二圓四十錢）

廣告料（一行五十錢 場所指定廿錢增）

福島縣小名濱町古港一 發行人 伊藤除次

福島縣平町南町五九 發行所 常磐新聞社



小名濱カフエー紹介號特輯

小名濱カフエー禮讚

時代の寵兒カフエー

近代文化施設中カフエー位超スピードで全國的に發展伸長せるものは稀れである而して近代色濃厚にして文化生活の源泉と言ふも敢て過賞であるまい、將に商港完成を目睫に控へる吾小名濱町も一般傾向に洩れず其發展振り設備の近代色ソフアーにボックスにホールに各競つて優秀なるコックを雇ひ此に配するに美給の高尚ほサービス等一般都市に比較して些の劣勢を認めない。

顧るにカフエーが初めて小名濱に生聲を揚げたのは大正九年の西洋料理店として現在の喜樂である、其當時は洋食の試食時代、越て昭和三年に初めてカフエー式に現在のカスケードが近代的の施設と女給を配したる先驅者として人氣に投じ爾來今日の隆昌發展を馴致するに至つた。

觀じ來れば其間數年今や全町に亘り十五軒のカフエーは研を競うてネオンサイン華かに街道を彩つて居る。何故カフエーは斯く如く長足的に進展したか、所謂時代の要求に順應したと言ひ得るであらう。餘りに御上品な藝妓の御座敷、娼酌婦の、淫蕩味の中を行く自由樂園、拘束されない安易なる代償にて華かな雰圍氣に浸り自由奔放なる氣分にて本能的戀愛の戯も出來る、明日の活動に昂然の氣を養ひ階級抜きの樂士として大衆に受ける故なきではない。吾小名濱の進展の先驅者の威あるカフエー本町發展のバロメータとして吾人町民の關心事たることを覺ゆるものがある。――

社界の尖端に跳躍するウエス諸嬢職業婦人としての品位を保ち高雅なる樂土の建設に夫れが諸嬢の擔ふた大きな町民としての義務なのだ――

サラバカフエ――

小名濱カフエーの變遷

S カフエー主人寄す

カフエー營業者として女給やコックと多くの店員を使雇する私達接客深夜勤勞者は其の經營に多大の困難を續けて居る他巳とは全く逆つた苦痛を感じて居ります。

盜棒するかカフエーするかと云ふぼくぼく時代が有つたが其れはほんの瞬間丈けて競爭同業者の亂立で今や年貢の納め時で行き先が案じられます、時代の潮流によつた商賣丈けに大風一過本町に一二軒位はやつて行けるでせう、こうした現象は日本全土津々浦々まで及んで居ます、今小名濱に於ける大体を申せば現在の喜樂田中福松氏が西洋料理店として大正九年十二月二十七日開店し同業者四五人を出しカスケードが昭和三年五月二十五日女給を使雇してカフエーとして今日に及んで居ます、昭和六年五月二十八日小名濱町西洋料理業組合設置を認可され本縣に其の聯合會が本年本月九日を以て生れました。

それで左記の同業者に一營業者某 依つて過去現在將來とを考へて見て下さい。

現存の同業者名

新よし
喜樂
カスケード
みのり
浮世
小名濱會館
寶來
みなと
小名食堂
末廣
ウララ
松竹
ハッピー
大まとい
以上十四軒

廢業せる同業者名

おさよ
ともへ
開進亭
吉田屋
千鳥
銀月
昭和亭
ナカヨシ
キング
信夫
泉進亭
金瀧
ヤヨイ
パリー
辨天食堂
いろは
大友食堂
スター
リズム
リリー
スズラン
濱見
以上

カフエー女給とサービスの價値

粹人諸兄――藝妓を呼べは玉代が掛る酌婦のサービスには酌料が支拂わなければならない――

粹人諸兄カフエーに遊ぶ人は女給のサービス料支拂を好く忘るゝ方が多い、請求せぬから出さぬは粹人としては恥かしい、女給は社界の尖端に樹つ立派な職業婦人だ彼女等は捧給としては僅か湯錢位が相場なのた而してサービスの衝に當るのだから失禮にならぬ丈けの服裝と裝ひが必要なの粹人諸兄女給はチップが目的なのだ夫れに依て彼女等が品位と高雅さを保たなければならないのだ、粹人諸兄――カフエーに遊ぶには可憐な彼女等の爲めにサービス料を拂ふのを忘れてはならない、面白く遊ぶのが目的なれば相手の天眞爛漫さが必要だ――

然らば女給のチップは何程が適當か、記者をして言わしむれは勘定の二割位が妥當と思われる。即ち一圓の勘定にはサービス料二十錢之れ位は決して失當な負擔ではあるまい。可憐な麗人ウエス嬢の爲めに諸兄の關心を呼ぶものである――

今後に於けるカフエー 經營上の轉向策

カフエー經營上現在最も緊要なる問題は女給諸君のサービス振で經營者自体からしても相當關心を要する事で現今に至つては小名濱へも幾分選練された連中も大分見えて來たが要するに彼女等の姿態の艷麗である事を第一條件とするも先つ其土地柄に適應した氣分を持たせる事と髮飾りや着衣履物等に至る迄女給は女給としての立て前と品位を保たしめる其爲めには假令着衣はメリンス又は人絹であつても着こなしと柄合によつては相當の氣分を引立たしめるのであるから一見しても酌婦との判別を識別される樣にそれかと云つて藝妓の眞似もあまりに鼻に付くもので特に突襟した工合を見せつけられてはぞつとする事も間々あるのである次に御客の汲收策であるかが當今毎夜の常連を見る時一番大多數を占むるのが青年組で合間に壯年連又はシツプメン、セーラー等と云ふ順序なのであるが廻船連としては中々見逃してはならぬ客筋ではあるが災に最も留意せねばならぬ客筋としては此内の壯年組で現に各都市に於てのカフエーを一見するならば其五割は三十歳から四十四五歳位迄の紳士に依つて椅子を占領される、これは要するに所謂親の脛を嚙るとは違ひポケツトマネーの自由の効く事と永續性のある事と又女給間との戀愛關係も少く經營者女給共に安心のいける處に狙ひ處があるのであるであるからデャン〳〵騷ぎして居る店が繁昌してるのかと思ふと純收入の点では割合に靜かな店の方がより多き收入を見る場合が往々にしてあるので當地に於ても現に其樣の有様を目擊するのであゑ。

先つカフエー經營方法には比較的苦心を要するのであるから經營者としては常に怠りなく自分の住む土地とそれに匹敵する町に於ける經營振りとを見聞してより良き施設と方策とを構じなければ何時でも人後に落ちる事を切に考ひられ度きものである。

（長野九四郎投）

女給の言分

はなやかなネオンサインのかげに涙ぐむ女給としての本當の私達の姿――いくらまぢめに働らいてもどうしても色めがねで見られる私達女給――

世の皆様

今少し女給としての私達をまぢめに見なをして下さい女給は皆なと云つてよい位親のためとか兄弟のために働らいてゐると云つても間違はないだらうと思ひます、好きで女給をする人は十人の内なら一人位だと申してもまちがいがない位すべての女給はしんけんに働らいて居るのです。このたび常磐新聞で私達のた客樣にして貰いたい事や女給のいゝ分を新聞にのせてくれるそうですから思きつてお客様におねがいしたい事をかいて見ます。

一番私達がいやがるのはコーヒー一杯で二時間も三時間もいられるのわ本當に泣きたい位です、主人にはきがねするしほかのお客様はコーヒー位で我が物がほにさわいているのを見ると大ていはいやなかほをして歸つてしまいますこんなお客の事は思きつてノシてしまたらせい〳〵するだうとつく〴〵考いてしまいます、こうゆうお客様はよく考いなをして下さい

すべて女給にもてるのは金づかいのきれいな人がもてる物です、どんな惡るいかほの人ものみにくるたびきれいに金をつかつて行くとしぜんに好感をもつてくる事はどうする事も出來ません

世の皆様

私達はチップ暮しなのですから會計の一割だけはサービス料としておくのが當然ですこれは常識と云つてもよいくらい?皆様これだけは是非心得て居て下さい最後に女給の事は決して色めがねで見る事だけはよして下さい、これだけは皆樣に眞劍にお願ひ致します。

ものかなしいレコードをきゝ遠き父母又は兄弟達を思つてネオンのカゲに涙する女給の多かりし事よ

これをよんで皆樣いかが思ます

小名濱町カフエ内 K子

小名濱町 カフエー評判記

カフエー **ホーライ** 中島本町通り

女給 マツエ ユリ子 ユキ子 チイ子 京子 ミトリ ヨシ子

小名濱町最も繁化な札場にカフエー色濃厚な洋館夫れがカフエーの華として入氣の中心たるカフエー**ホーライ**である。室内一階二階共全部洋室でソファーにボックスに浮世はなれた別世界の觀を抱かしむ之れに配する美給七人高雅なるサービス、料理は腕自慢のコック中澤君の冴ひた味、主人栄花氏は時代の潮流に掉し千金を惜まず其施設に町發展の先鞭をつけ四季好く人氣に投合せる催しをなし先驅者としてカフエー**ホーライ**の名聲は日月と共に陽光を發して居る。

カフエー **浮世** 辨天横町 電話百三十三番

女給 オコウ カオル ミネ子 久子 ヨシ子 安子

カフエー浮世は最近店舗の擴張と美給嬢の粒撰揃ひと相俟つて超スピードに進展を示して居る、階上は日本座敷として腰を据ひて飮める設備も出來て居る主人は小名屋として料理店に名を馳せた丈けにカフエー經營にも一隻眼を有し小名屋料理店連鎖式にて和洋食共に腕の冴を見せて居る。

カフエー **カスケート** 中島南裏通り

女給 豆子 君子

カスケートは小名濱カフエーの先達として功勞のある人である昨年現在の場所に理想的營業所を建築し階上階下最新式に則り新裝整ひ客を待つて居る主人自ら料理臺にたち永年鍊ひた腕を見せて居る秋の裝に美給の撰擇にオサ〳〵怠りない主人堀越氏はカフエー組合長として福島縣西洋料理聯合會理事として重きをなして居る人だ。

カフエー **キラク** 中島通り 電話四十七番

女給 ミサオ クニ子

カフエー**キラク**は十四年前に西洋料理を開業し來た町民の舌に味覺を知らざる時代より敎育者の立場となつて隨分犧牲もはらつた模樣である。今昔の感を叩ひたなれば感慨無量なるものがあらう、爾來**キラク**はサービスよりは料理本意に進んだ傾向があるが時勢に鑑み今回進式のボックスを入れ女給數名を増員し料理とサービスの兩道を行くと言うから今後の**キラク**は粹客注目の焦點となるであらう

カフエー **大まとい** 中島本通り 電話百三十番

女給 夏子 秋子

ソフアーにボックスに店舗裝置の完成と主人赤津氏自ら料理臺に立ち微妙なる味覺に萬全を盡す調理は醉客に滿足を興ひ日一日と人氣の焦点となる故なきではないカフエー開店七週年を迎ひ來る十月一日より謝恩大サービス二割引の催しをすとか秋の食慾をソソる時夏子秋子兩氏のサービスに春子冬子の兩名を迎ひ萬遺算なきを期すとか。

カフエー **松竹** 中島錦盛館脇

女給 君子 八重子

松竹の調理は擔當茶田君の自慢丈けに出前が賑繁だ殊にサラダ類に至りては充分なる自信があると云ふ落付きのある。君子八重子兩氏のサービスも評判が好ひ經營者丹野七太郎氏の醉興事業丈けに金にあかして材料を精撰し堅實の地歩を示めつゝあるは將來カフエーとしての進出振りに刮目の價値がある。――

カフエー **末廣** 下横町通り

女給 ヒロ子 高子 八重子 愛子 新子 靜枝

新進カフエーとして儕輩を拔く進展振りは驚異的である美人揃ひの六名のウエス嬢夫れに新式の施設は人氣に投合し今や評判の中心である階上は日本式客間としてノンビリと情緒を味ふにも殊欠かぬそうである。主人の商賣熱心は今日の人氣を博したものであらう

カフエー **小名食堂** 上横町

女給 ハル子

食堂の名の如く安價にして美味を提供するが小名食堂の生命であるらしい廣汎なる店舖と二階二間の客室あり食通の常連で賑て居る小名食堂の發展は之れからの感を一般に與ひる。主人の熱心なる考察は今後に大なる期待を掛けられる

カフエー **ハッピー** 錦盛館通り

女給 道子 スミ子

カフエーの粹らしい名**ハッピー**の經營者は獸醫として遠近に其名も高き坂本氏の經營に依るもの設備の完と修練のつんだ女給のサービスが人氣の焦點となり開店日淺きに既に一流カフエーとして研を競ふて居る現代味豊富の坂本氏丈けに將來の進展振りは業者の注目の焦點となつて居る。

カフエー **ウララ** 錦盛館通り

女給 道子 冷子 ウラ子 不詳

カフエー**ウララ**の存在は創業僅か五ヶ月にして既に一流カフエーとして粹客話題の中心となつて居る宜なる哉經營者高萩氏は磐炭に係長として二十余年の經歷を有する人で人格者として一般の畏敬を一身に聚む品位高尚人で氏のカフエー經營は眞に淸らかな樂園建設にあるとか聞く、女給も氏の目鋭にかなつた上品楚々たる麗人揃ひ一夕の淸遊には諸兄の滿足を得るならん。

カフエー **ミノリ** 辨天横町四ツ角

女給 トモ子 テル子 姓不詳

御上品なカフエーとして大部インテリ階級を顧客

──「一」より──

するミノリは愛し娘愛子さんの經營に依つたもので彼女は高女出身の文學趣味を有し顧客は愛子孃の口吻に接するを無上の幸榮として通つたもの、美人薄命のたとひに洩れず春秋に富む二十一歳の處女として永遠に歸らぬ天國に旅出つた、爾來御客も其不幸に同情し一時足を遠ひたが女將の透視眼は經營に一新加ひ美給を吟味しコックの鈴木君腕によりして努力さるゝ更生ミノリは舊に倍するの盛況を呈しつゝある。

カフェー 小名濱會館

辨天横町

女給　洋子　蘭子　マツ子

近代的商號と理想的カフエー型營業所を有する小名濱會舘主伊藤氏は鮮魚商として發剌たる氣分の所有者である。營業方針も嶄進で時代に順應してるコック松れんの腕の冴は夙に定評がある上遠野町に支店を有し將來に大きな希望を有する店だ、

カフェー ミナト

上横町

女給　君子

カフヱーミナトは廣々な店舗と日本間の設備あり主人松田氏松本意の調理に精進し研究も怠りなく秋の裝に味覺に萬全を期しつゝある サービス孃君子さんの才色兼備の振舞は顧客の吸引に百人藝を揮つて居る。

カフェー 松月

古港　電話一四一番

女給　フジ子　好子　久子　春子

古港に唯一つのカフェー松月は阿部氏の愛人の經營に究る丈けに閑熱せる中年女給の身の入つたサービス振りに大部繁昌してる洋式サビースに滿足出來ない御客には閑邪な日本座敷に案內する此所では大底の氣むつかしい御客も得心が出來るとか日本料理に洋食にコックの腕の冴は大部評判が好ひ。

小名濱 カフェー七不思議

「みの坊」

カフェーの女給と云ひば必ず美人と相場は定つてゐる。新聞記事に出る自殺や心中の定り文句の樣に鼻がデングリ返つてゐても尻が出張つてゐても取消仕樣がないばかりか訂正の仕樣もないと云つて御客さんの罪でもなければ本人の罪にもならないデングリ返つた鼻さ白粉を塗ればブルドックになるし塗らなければ狆コロに見るは心定だが小名濱にはそんな女給さんは奇績的にも居ないから不思議だ

× ×

目を八荒に睨み体を八双に構へてホー紅コッテリと著ければエテ公の如く素顏は神樂獅子の樣な女給さんの居ないのも小名濱の不思議

× ×

だが居たにしても着物を著てゐるから不思議の一つ

× ×

一見化粧して客姿端麗鶴の如く寢起姿は駄鳥の如き女給の居ないのも不思議の一つ

× ×

美人の形容詞は爪實顏に三國一の富士額と云ふがコテコテと化粧してトンと豚の好くならざるも小名濱カフェー七不思議の一つ

× ×

德利片手にお銚子と聲を出し腹は白いと見せても狸の如く腹ほつてりならず顏白く見せても狐の如く狡猾ならざるは小名濱女給さんの不思議の一つ

× ×

柳腰鶴歩と体裁はよいが馬宴牛歩と云ふ柄の女給さんの居ない事とイクラ鼻が天の樣でも象の樣な鼻を持つた女給氏の居ないのも小名濱カフェーの七不思議の一つ

× ×

以上小名濱カフェーのインチキ七不思議

インチキ カフェー論

（古港米次投）

歡樂境、人間何人か欲せざんとして能動的に欲するもの歡樂あらずして何ぞや余り堅苦しく原則的な文句を拔きにして私はカフェーの近代色に於て最も尖端的で經濟でサービスが多いので此點に贊成する一人であります、なんで可笑な何所かの議員氏氣取るのでないが兎に角舊式で襟元でいやに事大振ていかさての軸物や床置て自慢を見せ女中の狡猾と勘定の高いのと勿体なさな料理に時間胡摩化しのインチキ藝者のいやに高慢じきな等と云ふと如何にも藝者に振られ料理やに勘定が滯り居るでは御座らぬかと云ふかも知れないが憚りながら先祖代々觀板に詐りなく下錢で御座る。最も釣錢を取りたる試しは御座らぬ待士なり、斯くの如くして少しく謂ゆる歡樂境を視察旁御座る。

カフェー既ちカフェーはドアヲ排ストヤイラッシャイ御注文はと來る直樣美人の斡旋ジャーズ酒料理なしと敏速では御座らぬか、手の二三十も叩いて長い廊廊を氏居眠り半分の道中より注文品に鼻を突く料理の臭いと云つて僕は味覺に失業し居るのではないかなんと快速にてサー御歸りや勘定早速彼女が計算する又は何番サン勘定と來る早戰早決主義軍國日本の戰術から見て甚だ愉快であるのでそれになんぞや御勘定只今と帳場に行くと禿頭の算盤面倒を極め三島河眺そつち除け婦仲々干渉して出來上る迄いやはや夜は三更合せ得たり能州の景、家郷遠征を思ふ家の娘の感想や如何、歡樂境變じて忽ち起る修羅の巷乃公甚だ時局を收拾するに苦しく我等此處於て舊式圏內の時代錯誤を失敬して何時參りてもノークアウトせざる出入自由の歡樂境に禮贊の意を表するものなり

カフェー傍系 商店の評判記

清水屋本店

電話六番

醸造に成る銘酒「清世界」の眞價は夙に定評あり灘の銘配に優るとも劣らぬと愛飲家の禮讃振り。

米屋酒釀店

電六十二番

米屋の銘酒「養老」名の如く芳醇たる小名濱の養老酒

磐崎屋酒釀店

電七番

銘酒「長生」の名四海に普ねし一擧以て陶然たるを得る。

松屋食料品店

松屋の果物は小名濱隨一何時も新鮮なる珍らしきハシリ物迄店前山を成すの大量販賣、カフェー料理店の口取には松屋の清新なる果物を──

永山支店

電一四〇番

銘酒由良之助の名聲は小名濱進出にも一寸の遜色もない銘酒の銘酒たる以所はそこにある。

會津屋酒店

銘酒「香久山」會津酒の本場に於て夙に斷然頭角を顯した香久山の需要宜なる哉と言ひる。

加藤屋商店

開店日尚は淺き加藤屋其進出振り荒物雜貨に唐物本町商店をリードする奇感を呈しつゝある。

小名濱婦人結髮業短評

小名濱結髮業組合は現在八軒の營業者がある。大關格本田ミツ子さん鈴木キクさんの盤石の如く地盤は十年一日の如く繁昌して居る最近の賣出人氣ものに武藤古物問屋の美容院榎本文江さん又錦盛館脇の松本イチさんがある、松本さんは本田さんのお弟子として手腕を認められ榎本さんが料理屋方面に得意を作り松本さんは藝妓屋方面に大なる信用がある。──昔の髮結業は髮をたばねるが唯一仕事であつたが現在では婚禮着付美容術等を修得し何れも其方面に飛躍を試みつゝある代表的結髮業として右四氏の跳躍振りは目醒き程である。

婦人結髮 美容 婚禮着附術
本田ミツ
小名濱町下神明町

婦人結髮 美容 婚禮着附術
松本イチ
小名濱町錦盛舘横 電話呼四番

婦人結髮 美容 婚禮着附術
鈴木キク
小名濱町字上町 電話呼六十三番

エムワイ美容院
和洋結髮 御婚禮着附 化粧
榎本文江
小名濱古港新町五四 電話五十二番

內外果實 和洋酒 日用品百貨
松屋食料品店
作山忍
小名濱町中島

會津銘酒「香久山」特約店 醬油味噌 食料品一式
會津屋酒店
井上三郎
小名濱小學校入口

銘酒清世界醸造元
清水屋本店
小名濱町 電話六番

銘酒養老醸造元
米屋酒釀店
小名濱町 電話六十二番

銘酒長生醸造元
磐崎屋本店
小名濱町電話七番

銘酒由良之助
鈴木雄作酒店
永山支店
小名濱町 電話一四〇番

御頭味噌特約店
荒物雜貨 日用品百貨
加藤屋商店
小名濱町中町

英國製手編用毛糸 和製ダイヤモンド毛糸 手藝材料種々
樋口呉服店
▼安心して買ひる店▲
小名濱町中島

良品廉賣に勝る商略なし
【磐城セメント】特約代理店
金物問屋 **久 釜屋商店**
磐城平町五丁目 電話九番 九九番
東京振替貯金口座一〇九五六

外科專門 レントゲン科
上田外科醫院
平町南町 電話一二九番
◇病室の設備入院應需◇

內科・外科 花柳病科・小兒科
レントゲン科
▼病室の設備あり▲
中村醫院
小名濱町 電話十八番

內科外科耳鼻咽喉科
宮津醫院
小名濱町西町 電話百四十二番

內科、外科 小兒科、花柳病科
平川醫院
江名町 電話二六番

內科小兒科花柳病科
佐瀬醫院
小名濱町中島 電話百三拾五番

內科、產婦人科 小兒科、花柳病科
久保田醫院
小名濱町 電話二三番

營業課目（冷凍部。鑛油部。魚市場。製造部。）
磐城水產工業株式會社
社長 小野晋平
支配人 福尾伊太郎
小名濱町 電話六六番 百十番

營業品目
醫療藥品、工業藥品 有名賣藥、染料 塗料 衛生材料、化粧品 洋酒鑵詰、寫眞機材料
資生堂藥舖
福島縣小名濱町中島 電話一四四番 振替口座仙台五四二〇番

古本雜誌高價買入
ほてい屋書店

營業種目
帝都資金貸付 擔保附貸付 無擔保信用貸付 有價證券賣買 保險代理業 其他一般貸金業務
帝都證券株式會社 小名濱支店
本社 東京市麹町區山下町 東拓ビル內
支部 小名濱町本町五番地 乘床裏
◇金融代理店募集各町村に壹名限り相當資ある人格者を希ぬ
◇內外勤社員募集詳細は面談通信を乞ふ

裁縫、學用品 化粧品藥品の御用命は 整つた店
寶屋商店
小名濱町 電話三十九番

株式會社 **七十七銀行 小名濱出張所**
資本金九百萬圓 福島縣々金庫 小名濱町金庫
電話五番

眼科專門
鈴木眼科醫院
植田町
小名濱分院
◆入院應需◆

体温計と寒暖計は 親切の藥屋
白石藥舖
小名濱町中島通り

小名濱第一の
新松屋菓子司
美味の御菓子
御みやげの王座 味覺百パーセント
電話七十五番へ

貸切の御用は
馬目タクシー
小名濱町 電話一三八番

御旅館 **新藤屋**
平驛前 電話四五九番

濱通り第一の靈鑛 七濱近郊第一の保養地
小瀧鑛泉 瀧の湯
神經系統諸病 皮膚病胃腸病 リウマチス 婦人病、痔疾 諸病に特効有
◆入浴料一日僅か二十錢◆
小名濱郊外大原

印刷は──技術本位
昭和活版所
平町南町